

下水道事業と菊川の水質保全

鈴木 直博（みどり21）



つつじヶ丘で平成30年に合併浄化槽から下水道に切り替えたところ、BODの値が切り替え前13〜31であったものが、0.5〜1.9に改善され、合併浄化槽より下水道の方が水質の改善能力が高いことが証明された。

◎ 下水管を設置し、これに接続する世帯を増やす方策は。

▲ 工事説明、供用開始説明会や戸別訪問により下水道の役割や接続に関する補助および減免制度の説明を行っている。また、合併浄化槽には、故障や年一回の法定点検の負担があるが、公共下水道は一度接続すれば、個人の修理費用の負担がない等の有利さを説明し、早期接続のお願いをしていく。

◎ 高齢者世帯や現状維持で良いと考えているお宅に早期接続をしてもらうために、期間限定の使用料の軽減制度等を創設すべきではないか。

今こそ考えるこれからの菊川市

倉部 光世（市民ネット）



新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、菊川市がより持続可能なまちとなるよう見直す必要がある。

◎ 今後の菊川市の方向性をどう考えているか。

▲ 第2次総合計画を進めることは重要であるが、様々な事業の見直しも考えていかなければならない。事業仕分を行う予定はないが、行政経営システムにより行政評価から実行計画、予算編成につなげ、行政運営の実現を図っていく。来年度以降の財政の見込みは歳入面で不確実、具体的に幾らまでとははじけないが、来年度の財政的な見通しは厳しく、予算編成は工夫が必要と考えている。

◎ 市民を巻き込んだ対話によるまちづくりの必要性は。例えば、菊川駅の橋上駅舎から駅北開発という大型事業の合意形成は。

▲ 対話をしながらまちづくりを進めていくということも必要。自由通路整備はJR東海へ概略設計



◎ 地方の時代、これからの移住定住推進施策強化への考え方は。

▲ 地方移住に関心を持つ方が増えている。ターゲットに合わせたPRを行い、サテライトオフィスやテレワークなど移住者を呼び込む環境整備を研究する。

他に「人に優しいデジタル化の推進」について質問しました。



菊川市専用のマンホール蓋